2024年4月10日　144号

「グループ中国だい好き」会報

『中国だい好き』

我们很喜欢中国!
Women hen xihuan zhongguo!

●代 表　内田知行　042-464-8858
〒203-0034東久留米市弥生2-7-13
●編集・発行グループ
内田知行　千田茂
●http://medialab.o.oo7.jp/china/(ホームページ)
●http://www.kurukuru-ch.com/（くるくる）

2024年度総会 のお知らせ

2024年度「グループ中国だい好き」の総会を下記の要領で開催します。

日時：2024年5月19日（日）　13：15～16：15
場所：東久留米市市民プラザ　会議室
第1部　2024年度総会　13：15～14：15
第2部　講演会　14：15～16：15

中国だい好き　2024年度第1回講演会

大谷探検隊将来品の来し方と行方

日時：2024年5月19日（日）　14：15～16：15
場所：東久留米市市民プラザ　会議室
講師：勝木言一郎さん　（東京国立博物館特任研究員）
参加費：無料

■講演内容

浄土真宗本願寺派第22代法主であった大谷光瑞（1876～1948）は、20世紀初めに、中央アジアに学術探検隊を3度にわたって派遣しました。これを大谷探検隊といいます。

大谷光瑞は1909年に六甲山麓に二楽荘という別荘を建設し、そこに大谷探検隊将来品を展示しました。

しかし、1914年、大谷光瑞が法主を引退すると、二楽荘も大谷探検隊将来品も売却されることになりました。

散逸した大谷探検隊将来品は、やがて日本の東京国立博物館や龍谷大学、中国の旅順博物館、韓国国立中央博物館などがそれぞれ収蔵することになりました。

今回の講演では、大谷探検隊将来品の中からいくつかの作品を取り上げ、どのようにして作品が作られたか、またどのようにして作品が伝わっていったかを解説します。

★講師自己紹介

勝木言一郎（かつき げんいちろう）

博士（芸術学）。東京国立博物館特任研究員。東西文化交流史専攻。

敦煌莫高窟など、中国の石窟寺院に作られた絵画や彫刻を対象に、仏教図像を研究しています。

東京国立博物館では、東洋館で「西域の美術」や「インドの細密画」に関する作品を展示しています。また今年度からは海外展を企画し、運営する業務を行っています。

ウクライナ戦争と蕎麦の国際貿易

中国経済を専門とするエコノミストの小島末夫さんは、近年は「江戸ソバリエ」として活躍している。中国とロシアは世界の2大ソバ生産国（全体の7割前後を占める）であるが、ウクライナ戦争の勃発後、ソバの国際貿易に変化が生じ、それが日本のソバ市場に影響を与えているという。ウクライナ戦争は2024年2月に3年目に突入したが、西側諸国による対ロ経済制裁をうけて西側とロシアとの貿易は縮小した。他方で近年、ロシアと中国との貿易が急増した。アメリカの主導下に世界経済のサプライチェーンの脱中国化も進行している。そして、中国は原油や天然ガスなどの一次エネルギーのロシアからの輸入を急増させている。ロシアから中国への玄ソバ輸入も急増しているという（ソバの貿易統計は殻付きの実＝玄ソバ、と抜き実のソバとに区分される）。近年のロシアではソバの生産が堅調で、輸出も低価格で安定しているから、玄ソバの対中輸出が激増している。他方で中国では、アメリカから大豆やトウモロコシを輸入してきたが、アメリカとのあいだに生じた貿易摩擦のために、ソバから大豆やトウモロコシへの転作（ソバの作付面積の減少）が進んでいる。また、アメリカでもソバから収益性の高い牧草・トウモロコシへの転作が進んでいる。因みに、近年の日本国内のソバの年生産量は4万t強、自給率は30％台、国別の最大輸入国は中国、次いでアメリカ、ロシアの順で、毎年の輸入量合計は玄ソバが3～5万t、抜き実ソバが約4万t、合計8～9万tである。こうした新たな経済環境の中で、いまの日本のソバ市場にも大きな変化が生じている、と小島さんは指摘する。詳細は、4月17日午前10～12時のアジア歴史講座（於滝山・西部地区センター）の小島さんの講演にて。（内田）

中国語教室　生徒募集

クラス	講　師	授業日時　教科書など	教室会場
初級A	勝木　節子	土曜　18:.00～20:15	中央町地区センター
初級B	任　韶華	土曜　13:30～15:30 汉语听力速成 基础篇	生涯学習センター 中央町地区センター 八幡町地区センター
中　級	羅　敏	月曜　10:00～12:00 『時事中国語の教科書』	生涯学習センター 市民プラザ 東部地域センター
会話 （話そう朋友）	金野　蓓蕾	火曜　10:00～12:00 自由会話＋副教材	生涯学習センター 東部地域センター